

令和4年度第1回石川県農林水産研究評価委員会 事後評価結果

※石川県農林水産部試験研究評価に関する実施要綱第10条に基づき、個人情報や企業情報、知的財産権の内容等機密保持が必要なものは非公開としていますので、ご了承願います。

日時：令和4年7月28日（木）13:30～15:30  
場所：石川県庁行政庁舎1109会議室

番号	機関名	課題名	研究期間	研究概要	総合評価	評価委員コメント	委員コメントに対する研究機関の回答・考え方等
3	農林総合研究センター畜産試験場	酪農における自給濃厚飼料の活用	R1～R3	<p>輸入飼料価格が高騰し、畜産農家の経営を圧迫しており、安価で高品質な自給濃厚飼料の活用について検討する。</p> <p>①水田における子実用トウモロコシの栽培技術の確立 ②子実用トウモロコシ給与による搾乳牛への影響</p>	A	<p>①乾燥調整や保管施設の確保について、JA等と本当に連携がとれるのか？ ②この飼料で育った牛の味は？ ③生産性の向上、収益性の確保をする上で、目標（500kg/10a）と現状（334kg/10a）の間はかなりギャップがあるので、どのようにそれを埋めるのか、説明が必要だと思う。 ④北海道子実用トウモロコシ生産組合でも同様な研究成果報告があった。石川県における特有の問題が何なのか明確でないように思う。 ⑤収穫後の流通コストも考慮したコスト比較（生産側、流通側とも）も行い、メリットをもう少し明確にしてほしい。 ⑥価格を下げる必要はあると思うが、農家の負担にならないよう、全体の事を考えて成り立つ様にすることが大切。持続可能な生産体制が必要。 ⑦現在、外的要因（コロナ、戦争）にて輸入品の価格が高騰になり、今後我が国に入ってくる来なくなることが多いと考えられる。国内でできる物はなるべくしていく必要があると思う。 ⑧耕種農家が経営として取り組む価値があるのかが微妙。 ⑨大切な研究なので継続して、より耕種農家と畜産農家の両方にメリットがあるようにしてほしい。 ⑩飼料価格が高い現状、濃厚飼料の県産自給は意義深い。 ⑪コスト面が気になるが、国内における生産技術の確保のために必要な研究だと思う。 ⑫飼料原料を輸入品から国産飼料にしたことは大変評価できる。</p>	<p>①県が中心となってJAと協議し、進めていく必要がある。 ②今回の搾乳牛の試験では牛乳の風味に違いはなかった。また、子実用トウモロコシで育った牛(肉)の味に違いはないと考えられる。 ③播種量、施肥、防除等の栽培管理を適切に実施することで目標に到達できると考えられる。 ④本県における地域の気候や土壌条件に適応した栽培方法が必要である。 ⑤⑥⑧⑨価格は生産原価に利益を乗せて設定するものであり、単収に応じて、その価格が大きく変動することから、一定の単収確保は必要となる。 また、畜産農家にとって飼料は地元で調達できることが価格面で有利になるが、価格を決める際には購入飼料価格の変動に応じて耕種農家と協議して決めることになる。今後、米の生産調整が強化されることになれば、戦略作物の更なる作付けが増えることになる。大豆に比べて収益性は低いですが、栽培するうえで比較的労力が少なく、栽培期間も短い子実用トウモロコシは選択肢の一つになると考える。</p>
4	農林総合研究センター畜産試験場	供卵牛の選抜方法と乳用牛の受胎率向上の検討	R1～R3	<p>能登牛の増産には受卵牛への和牛受精卵移植の受胎率向上が必要であり、そのために、良質な和牛受精卵生産と移植時に繁殖性を簡便に判断する指標を確立する。</p> <p>①新技術（ライブセルイメージング技術）を用いて受精卵の核・染色体異常を調査し、供卵牛を選抜する方法になりうるか検討 ②超音波診断装置を用いた受卵牛の繁殖性を評価する指標の確立</p>	A	<p>①受胎率50%は業界として高いのか、低いのか？ ②他県の知見はどのようなものなのか？ ③命に関わることなので、大きな視点で研究を続けてほしい。 ④和牛受精卵の県内の受胎率を向上させる技術が期待できる。 ⑤精度向上とブランド化への戦略が重要。 ⑥残された課題についても積極的に取り組んでほしい。 ⑦少しずつ成果が上がってきていると思う。</p>	<p>①乳用牛の受精卵移植の受胎率（特に経産牛）は、全国平均の集計値はないが、他県の民間業者や試験場などが公表している受胎率は30～40%という報告が多く、受胎率50%は高いと言える。 ②新技術を用いた受精卵の核、染色体の調査やそれを用いた供卵牛の選抜については他県における知見はない。超音波診断装置を用いた繁殖性の評価は、積極的に行っている民間団体はあるが、普及には至っていない。 ③④⑦食の安全、アニマルウェルフェアも考慮したうえで、石川県の畜産振興に貢献できるように取り組んでいきたいと考える。 ⑤⑥更なる精度向上を目指し、今後も取り組んで行く。</p>
5	農林総合研究センター林業試験場	スギ大径材から生産した県産ツーバイフォー材の開発	R1～R3	<p>県産スギ大径材から得られるツーバイフォー材の品質の高い効率的な製材技術及び強度性能を明らかにする。</p> <p>①効率的な生産技術の検討 効率的に品質の高い製材を得るための木取り方法を検討 ②強度性能の評価 実大材での曲げ強度、縦圧縮強度性能を把握</p>	A	<p>①スギ材と他材との特徴の違い。 ②研究内容は良いが需要がどこまであるのか？ ③コストが気になるが、国産木材の出口として必要な研究だと思う。 ④普及の可能性はどれぐらいなのか？ ⑤実際にうまく普及するのか。研究だけに終わらず、どうすれば結果が出せるのかが最大のポイント。 ⑥ホームセンターにも積極的に普及してほしい。 ⑦建築業者など川下への普及が重要だと思う。 ⑧良い研究結果が出たと思うので、普及・周知に努め、より良い山林の経営になるようにしてほしい。 ⑨県の公共の建築物にこの2×4工法の実物を事例としてプロモーションすれば良いと思う。 ⑩我が国の住宅部材の60～70%は外材であるため、コロナによるウッドショック、ウクライナの戦争による輸入規制と外材に頼ることにより大きな痛手を受けている。（納入量の不安定、価格の高騰）この機会に出来る限り国産材にシフトできる所はしていく必要があると思う。 ⑪木材の価格は上がり続けているので重要な成果である。 ⑫今まで安価な外材が入り、国産材の製品を作っても安価なため、生産する工場（山側含む）が成り立たなくなり辞めている。ウッドショック後、外材価格も上昇し、日本の川上、川下がやっと経営ができる水準になっているが、戦後に植えた木は大径化して使用用途が限られている。今回の研究テーマは大径木化した木の利用方法を考えており、今後に期待する。</p>	<p>① [比較] スギ材は、他材（外材）に比べ強度面では低い数値となるが、利用上はまったく問題ない強度を備えており、幅広く利用できるものと考えている。 ②・③ [需要] 現状、外材は品不足が続いており、スギ材の方が外材より3割程度安価で、価格競争力もあることから、需要はあると考えている。 ④⑤⑥⑦⑧ [普及] 現在の外材の情勢であれば、普及の可能性は十分あるものと考えており、生産を担う製材業に対して今回の課題で得られた技術的な知見を示していく。 また、より幅広い需要が見込めるDIY用材として、ホームセンター等への販路開拓の方策についても検討していく。</p>